Mercedes-Benz

Press Information
2021 年 9 月 5 日

時の流れに打ち克つ：e モビリティ時代への備えも万全のメルセデス・ベンツ G クラス

伝説の全地形対応型モデルシリーズ G クラスの純電動化に向けてエキサイティングなコンセプト EQG を発表

実用性に優れた象徴的オフローダーG クラスの純電動モデルの開発を量産間近なレベルまで高めたコンセプトカー、メルセデス・ベンツ コンセプト EQG。エクステリアデザインは、G クラス独自の人目を惹く外観に、メルセデスの純電動モデルならではのデザインを厳選して組み合わせることで、鮮やかなコントラストを演出しています。これまで常に最高の標準を打ち立ててきた「G」ならではの 4WD の特性は、電動モビリティの時代に引き継がれるだけでなく、いくつかの面ではいっそう進化を遂げることになります。このためコンセプト EQG は、メルセデス・ベンツ G クラスのバッテリー電気自動車モデルがお届けする優れた能力を先取りしてご紹介するものとなっています。

2018 年 1 月に米国デトロイトで行われたメルセデス・ベンツ G クラス現行世代モデルのワールドプレミアにおいて、ゲストにお招きしたハリウッドのスーパースターで熱狂的な G クラスファンでもあるアーノルド・シュワルツェネッガー氏が、ダイムラー社取締役会会長〔当時〕ディーター・ツェッチェからある約束を取り付けました。当時多くの人の意表を突いたその約束とは、全モデルシリーズを将来電動化するに当たっては当然 G クラスもその対象とする、というものでした。それからわずか 3 年半も経たずして〔2021 年 9 月〕、メルセデス・ベンツはその約束を果たし、G クラス純電動モデルの開発を量産間近なレベルまで高めたコンセプトカー、コンセプト EQG を発表することとなりました。ダイムラー社取締役、メルセデス・ベンツ・カーズ COO〔当時〕のマーカス・シェーファー＜訳注：現在の役職とは異なります＞は次のように強調しています。「メルセデス・ベンツは 2020 年代末までに、市場の条件が許すすべての地域で全面電動化の準備を整える計画です。『エレクトリック・ファースト』（電動化優先）から『エレクトリック・オンリー』（電動車のみ）への戦略の移行措置（持続可能な生産体制と自社製バッテリーに対する CO2 ニュートラル型ライフサイクルの実現を含む）によって、当社は排ガスをまったく出さないソフトウェア主導型の未来に向けた変革を加速していきます。メルセデスはお客様に対し、電動モビリティへの乗り換えを自信をもってお勧めできるモデルをお届けしたいと考えていますが、G クラスのようなメルセデスを象徴するモデルなら、その役目を完璧に果たしてくれるはずです」。

大成功を収めてきた G クラスの初代モデルが登場したのは 1979 年のこと。以来 40 年以上の長きにわたり、「G」はメルセデス・ベンツのラグジュアリーオフロードモデルとして生産され続けてきました。この間、メルセデス・ベンツの伝説的オフロード車として、その外観はわずかしか変わっていません。初代以来、技術面で最大の飛躍を遂げた 2018 年の広範な製品改良においても、人目を惹くその独特なデザインの変更については慎重の上にも慎重を期しました。それには十分な理由があります。かつての純粋に機能的なコンポーネントが長年の間に独自のスタイルを表す象徴的な要素となったからです。そうしたものの例としては、独特なドアハンドルやドアを閉めたときの特徴ある音、エクステリアの堅牢なプロテクションモール、リアエンドドア外側に取り付けられたスペアタイヤ、フロントの目を惹くウインカーなどが挙げられます。

クラシックな G クラスデザイン言語に、メルセデス EQ デザインからの「引用」を加味
G クラスモデルシリーズのデザインの伝統を着実に踏まえ、ひと目で G クラスと分かる量産間近な仕上がりのコンセプト EQG。数々の独特なデザインを含めて G クラスの角張ったシルエットを踏襲しています。エクステリアの堅牢なプロテクションモールは、照明付きのストリップにより、非常に目立つデザイ

ンとなっています。ツートーンの美しいボディカラー（上＝グロスブラック、下＝グロスアルミニウムビーム）の色の境目は、フロントエンドでは上に重ねたような形状のボンネットのすぐ下を通っており、この特徴的なデザインをより明確に強調しています。

コンセプト EQG のフロントビューは特徴的な円形ヘッドライトが効果を発揮して、おなじみの外観となっています。この純電動モデルでは、内燃エンジンモデルのフロントグリルに代えて、ディープブラックのフロントパネルが採用されています。このブラックパネルには、立体効果をもたらす、光るスリーポインテッドスターが鮮やかなアクセントを与えており、その周囲には、メルセデス EQ モデルでおなじみのブルーによる「丸味を帯びた正方形」のアニメーションパターン（スクゥークルパターン）を配して視覚的なつながりを生み出しています。ブラックパネルは周囲に照明付きの縁取りが施されており、これがドアミラーハウジングの白く光るサークルともあいまって、ヘッドライトのデイタイムランニングライトのデザインを補う形となっています。

ホイールは、専用デザインの 22 インチ ポリッシュ仕上げアルミホイールを採用しています。リアエンドドアには、通常のスペアタイヤカバーに代えて、白く光るアクセントを施したロック付のボックスが取り付けられています。充電用のウォールユニットを想わせるこのボックスは、充電ケーブルを簡単に取り出せる場所に収納したりするのに便利に利用できます。ダイムラーグループ チーフデザインオフィサー〔当時〕のゴードン・ワグナーは、次のように述べています。「メルセデスはこの新しい EQG とともに未来に向けて旅立とうとしています！　このクルマは最先端のオフロード性能と、私たちが皆で目指している電動モビリティの時代の姿を具体的に融合させたもので、最高の要求水準とラグジュアリーを実現しようとするメルセデスの飽くなき追求の中から生み出されました。当社にとって最も大切なことは、G クラスの DNA を完全な形で保存しつつ、それを EQ の時代に注入することでした。こうして G クラスらしい、それでいて一味違うクルマが誕生しました。ホワイト LED やリアエンドドアのウォールユニットのようなボックスなど、現代的なアクセントとなるデザインは、その違いが際立つ部分です」。

エクステリアデザインでもう 1 つ目を惹くのが、ハイグロスブラックのフラットなルーフラックです。ミニマリズムデザインを採用しており、その中心的要素として中央部分が、クルマの上方から見て G クラスと分かる「G」の文字を形作っています。ルーフラック前端に組み込まれたホワイトの LED ストリップは、過酷なオフロード走行に欠かせないサーチライトを現代的にアレンジしたもので、コンセプト EQG のこの面での本気度を強調しています。つまり、純電動にもかかわらず、ではなく、純電動だからこその本格派なのです。なお、このルーフラックは後端にもレッドの LED ストリップが設けられています。

メルセデス・ベンツ G 社マネージングディレクター 兼 メルセデス・ベンツ社オフロードビークル製品部門統括の Dr. エメリッヒ・シラーは、次のように述べています。「当社では、G が累計生産台数 40 万台以上を達成したことを大変誇りに思っています。G クラスは発売以来 40 年以上にわたって常に、各時代の最も進んだ、そして最もふさわしい駆動方式を採用してきました。例えば、初期の予燃焼室式自然吸気ディーゼルエンジンや、現在のフラッグシップモデル G 63 に搭載の AMG 4.0L V8 エンジンなどが挙げられます。当社の「エレクトリック・オンリー」（電動車のみ）戦略に基づくこの伝説的オフロード車の電動化は、要するにその延長線上の次の段階ではありますが、非常に魅力的なプロジェクトとなっています。G クラスはあらゆる面で時の流れに打ち克つアイコンであり、それは今も変わりません」。

妥協を排したオフローダー——電気駆動だからこそ
コンセプト EQG が明らかに「G」なのは、デザインだけでなく、中身についても言えることで、それによって妥協を排したオフローダーとなっています。ボディは今回も堅牢なラダーフレームを持つ構造を採用したほか、サスペンションも G クラスらしく、並外れたオフロード走破性を発揮できるよう設計されており、フロントに独立懸架サスペンション、リアには電気駆動システムを組み込むため新たに開発したリジッドアクスルを搭載しています。4 つの電気モーターはそれぞれがホイールにきわめて近い位置にあって、個別に制御可能となっており、これよってコンセプト EQG はオンロードでもオフロードでも唯一無二のドライビング特性を発揮します。コンセプト EQG のオフロード用低速ギアは、あらゆる本格派の 4WD 車の場合と同様、切り替え式の 2 段変速機によって選択可能で、「G」だけに求められる高いオフロード性能を確実に実現します。

G クラス純電動モデルは以上のような優れた装備を搭載しますが、量産モデルとして完成に至る開発の最終段階においては、当然ながらオーストリア・グラーツにある標高 1,445m のシェークル山に設けられた名高いテストコースに臨むことになります。最大で 60 度にもなる勾配を各所に配したコースは、全長 5.6km。国際的なオフロードシーンにおいて、いつの時代も人間とテクノロジーにとって世界最難関の 1 つに数えられてきたコースです。ここでのテストに見事合格すると、電動「G」も 463 シリーズの必須要件となっている「Schöckl proved」（シェークルにて検証済）の品質認定バッジを取り付けることができます。なお、登坂能力は、兄弟分の内燃エンジンモデルと同じく最大 100%（適合する路面の場合）と、見事な性能を備えることになります。

電気駆動システムは設計上のメリットも有利に働き、オフロード車にも、そして困難なオフロード走行にも適した理想的な駆動方式となっています。また、バッテリーはラダーフレームに組み込まれているため、車両の低重心を実現しています。コンセプト EQG や、後日製品化される量産モデルのような純電動オフローダーは、電気モーターが事実上最初の 1 回転目から最大トルクを発生するため、並外れた駆動力とコントロール性を備えており、急斜面や山深い道でも同様に威力を発揮します。